

広田遺跡ミュージアム・南種子町郷土館

館報 第8号

令和6年3月

南種子町広田遺跡ミュージアム

広田遺跡ミュージアム 館報

広田遺跡ミュージアム 館報 目次

第1章 館の概要

第1節 館の概要と組織…………… P3

- (1) 館職員数内訳
- (2) 館職員名簿
- (3) 南種子町広田遺跡ミュージアム協議会
- (4) 館職員事務分掌

第2節 利用状況…………… P4

第2章 館の事業

第1節 展示…………… P4～P5

- (1) 企画展
- (2) エントランスホールの展示
- (3) イベント

第2節 教育・普及啓発…………… P5～P8

- (1) 広田遺跡ミュージアム ジュニア学芸員
- (2) 学校、一般向け館利用
- (3) 出前講座・研修・博物館実習・職場体験等

第3節 管理・運営…………… P8～P12

- (1) 広田遺跡語り部の会
- (2) 広報
- (3) 文化財の保存・管理

第4節 調査・研究…………… P13～P16

- (1) 研究報告
「種子島民謡 草切り節について」

南種子町文化財保護審議会委員 向井良隆

第 1 章 館の概要

第 1 節 館の概要と組織

(1) 館職員数内訳

令和 5 年度

役職	専任 正職	兼任 正職	非常勤	専任 会計 年度	計
館長		1			1
学芸員	1	1		1	3
庶務係		1			1
学芸員補				1	1
受付事務				1	1
合計	1	3		3	7

※上記の他、語り部を 1 日 1 名配置。
※常任の学芸員 1 名を配置する博物館相当施設である。

(2) 館職員名簿

役職	氏 名
館長	濱田伸一(社会教育課長兼務)
副館長	館長兼務
学芸員 (専任)	小脇有希乃 (文化係長兼務) 豊島巧 (郷土館学芸員兼務)
学芸員 (兼任)	石堂和博 (社会教育係長兼務)
庶務係 (兼任)	大谷ともよ 九日窓花 (11 月 1 日～)
学芸員補(事務)	小笠原淳子
受付事務	上浦絵瑠

(3) 南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

○委員名簿

令和 5 年度			
会 長	柳田和則	副会長	宮里照夫
委 員	向井良隆, 大脇光矢, 野首久教		

開催日：令和 5 年 4 月 14 日 (金)
場 所：南種子町研修センター 2 階東側会議室
協 議：・入館者等状況, 令和 4 年度事業実績,
令和 5 年度事業計画, 運営計画, 重要文化財等

(4) 館職員事務分掌

役職	氏名	主な職務分掌
館長	濱田伸一 (課長兼任)	館の運営管理の総括に関する こと
学芸員 (専任)	小脇有希乃 (文化係長兼 務)	常設展示・特別展示に関 すること 資料の収集・保管に関す ること 重要文化財の保管に関す ること 館報・図録その他刊行物 の作成に関する こと 専門的調査・研究に関す ること 普及啓発・講座・広報等 に関する こと 体験学習に関する こと 他の施設、学校等との連 携に関する こと 予算の編成執行に関する こと
学芸員 (兼任)	石堂和博	普及啓発・講座・広報・ 企画展等に関する こと
学芸員 (兼任)	豊島巧	文化施設の管理・学芸に 関すること 資料の収集・保管に関す ること 普及啓発・講座・広報等 に関する こと 博物館協力団体の育成に 関すること
庶務係 (兼任)	大谷ともよ	館の管理に関する こと 庶務の総括に関する こと 普及啓発・講座・広報等 に関する こと 運営協議会に関する こと 史跡公園の管理に関す ること
庶務係 (兼任)	九日窓花	受付・観覧料等の徴収に 関すること 体験学習に関する こと
学芸員補 (学芸)	小笠原淳子	館、史跡公園の案内業務 に関する こと 受付・観覧料等の徴収に 関すること 予算経理、ミュージアム ショップその他庶務に関 すること 体験学習に関する こと
受付事務	上浦絵瑠	受付・観覧料等の徴収に 関すること 館、史跡公園の清掃及び 管理に関する こと
語り部	長田君應 ほか 7 名	館、史跡公園の案内業務 に関する こと 館、史跡公園の清掃及び 管理に関する こと

組織図

館長—学芸員 (専任・兼任正職)—学芸員 (会計年度)

└── 庶務係 (兼任)—学芸員補 (庶務)—受付事務

南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

第 2 節 利用状況

(1) 利用者数

年度	利用者数 (人)	町内	町外
26	2,429	1,268	1,161
27	11,225	3,064	8,161
28	7,226	1,899	5,327
29	7,520	1,619	5,901
30	6,194	1,231	4,963
令和元	6,176	1,414	4,762
2	4,021	1,720	2,301
3	4,049	1,242	2,807
4	4,466	793	3,673

(2) 体験学習利用者数

平成 27 年度 981 名、350,500 円
（初級 775 名 232,500 円、中級 176 名 88,000 円、上級 30 名 30,000 円）
平成 28 年度 805 名 340,600 円
（初級 402 名 120,600 円、中級 366 名 183,000 円、上級 37 名 37,000 円）
平成 29 年度 699 名 275,100 円
（初級 442 名 132,600 円、中級 229 名 114,500 円、上級 28 名 28,000 円）
平成 30 年度 548 名、229,400 円
（初級 313 名 93,900 円、中級 203 名 101,500 円、上級 31 名 31,000 円、特設 1 名 3,000 円）
令和元年度 503 名、227,900 円
（初級 258 名 77,400 円、中級 193 名 96,500 円、上級 51 名 51,000 円、特設 1 名 3,000 円）
令和 2 年度 182 名、74,500 円
（初級 120 名 36,000 円、中級 55 名 27,500 円、上級 5 名 5,000 円、特設 2 名 6,000 円）
令和 3 年度 507 名、241,300 円
（初級 156 名 46,800 円、中級 313 名 156,500 円、上級 38 名 38,000 円）
令和 4 年度 378 名、195,000 円
（初級 130 名 39,000 円、中級 184 名 92,000 円、上級 64 名 64,000 円）

(3) 書籍販売

平成 27 年度 売り上げ：53,500 円
（郷土誌 4 冊、広田遺跡報告書 6 冊、南種子の民俗 9 冊、南種子の民具 6 冊、南種子の文化財 6 冊、南種子の文化財 21 冊）
平成 28 年度 売り上げ：34,000 円
（郷土誌 4 冊、広田遺跡報告書 2 冊、南種子の民俗 7 冊、南種子の民具 2 冊、南種子の文化財 6 冊、

南種子の文化財 18 冊）
平成 29 年度 売り上げ：31,500 円
（郷土誌 4 冊、広田遺跡報告書 3 冊、南種子の民俗 5 冊、南種子の民具 2 冊、南種子の文化財 8 冊、広田遺跡ミュージアム館報 3 冊）
平成 30 年度 売り上げ：41,500 円
（郷土誌 0 冊、広田遺跡報告書 6 冊、南種子の民俗 2 冊、南種子の民具 2 冊、南種子の文化財 11 冊、広田遺跡ミュージアム館報 4 冊、南種子の神社仏閣 24 冊）
令和元年度売り上げ：21,000 円
（郷土誌 3 冊、広田遺跡報告書 1 冊、南種子の民俗 4 冊、南種子の民具 0 冊、南種子の文化財 5 冊、広田遺跡ミュージアム館報 1 冊、南種子の神社仏閣 7 冊）
令和 2 年度売上：12,000 円
（広田遺跡報告書 1 冊、南種子の民俗 1 冊、南種子の民具 1 冊、南種子の文化財 2 冊、広田遺跡ミュージアム館報 6 冊、南種子の神社仏閣 6 冊）
令和 3 年度売上：11,500 円
（広田遺跡報告書 1 冊、南種子の民俗 2 冊、南種子の民具 3 冊、南種子の文化財 2 冊、広田遺跡ミュージアム館報 1 冊、南種子の神社仏閣 6 冊）
令和 4 年度売上：25,500 円
（郷土誌 4 冊、南種子の民俗 4 冊、南種子の民具 3 冊、広田遺跡ミュージアム館報 3 冊、南種子の神社仏閣 11 冊、企画展才川家 3 冊）

(4) 開館日数

平成 27 年度 315 日
平成 28 年度 314 日
平成 29 年度 308 日
平成 30 年度 314 日
令和元年度 295 日
令和 2 年度 267 日
令和 3 年度 277 日
令和 4 年度 305 日

※令和 5 年度の臨時休館
・台風 6 号接近に伴う臨時休館
令和 5 年 8 月 8 日 (土)～令和 5 年 8 月 9 日 (火)

第 2 章 館の事業

第 1 節 展示

(1) 企画展

○企画展：下野敏見と南種子
期 間：令和 5 年 4 月 4 日～令和 5 年 7 月 2 日
内 容：下野敏見は、第一回柳田国男賞を受賞し

た日本有数の民俗学者であり、種子島の民俗研究の第一人者である。その研究により、種子島宝満神社の御田植祭が国指定となり、西之本国寺盆踊、種子島南種子の座敷舞が国選択となった。また、広田遺跡ミュージアム名誉館長としても尽力されたことから、下野敏見と南種子の関りについて紹介することを目的に開催した。下野敏見の生涯年表で民俗学者としての軌跡を紹介、ほか研究に関わる資料や南種子での映像・写真を展示した。2022年3月の逝去を受け、生前下野敏見と関わりのあった地域の方々が多数来館され、共に懐古する展示となった。

○企画展：種子島の石器とどんぐり

期 間：令和6年3月5日～令和6年3月24日
内 容：本企画展は、立切遺跡・横峯遺跡の国史跡を記念し、遺跡の価値を広く町民に周知し、体験していただくことを目的に開催するものである。横峯遺跡は、鹿児島県最古の遺跡の一つであり、この遺跡から出土した石皿・磨石は、種子島人が最初に使用した石器であり、弥生時代から古墳時代（国史跡広田遺跡の時代）に至るまで連続と使われ続けた最後の石器でもある。この「磨石・石皿」を通して、種子島の自然環境に適応した人々の生活の移り変わりを学ぶとともに、古代の種子島の人々が利用した里山の自然、特に磨石・石皿で加工することで人々が利用した堅果類（どんぐり）に焦点を当て、それらを触り・体験できる展示を通して学びを深めることを目指す。また、磨石・石皿は、地元で採れる石から作られ、地元で自生する堅果類（どんぐり）を利用するための道具であった。一方で、広田遺跡から出土する装身具は、交易品として奄美・沖縄諸島から運ばれた貝や九州本土から手に入れたガラス玉など、島外から搬入されたものであった。こうした交流したもの、しなかったものを比較する展示を行った。

○ミニ企画展：語り部が選ぶ郷土館の逸品

①丸木舟の製作用具展示（選者：兵藤幸夫）

期間：令和5年4月～6月

内容：丸木舟の製作過程を示したイラストパネルとその製作用具の展示。併せて南西諸島現役最後の丸木舟の出漁ビデオの放映も行った。

②昔の運搬具展示（選者：日高久則）

期間：7月～9月

内容：昔の運搬法について紹介し、それぞれの運搬法で使用される用具を展示した。また、体験用の運搬具も展示し、希望者には実際に体験してもらった。

③漁具の展示（選者：元川孝男）

期間：10月～12月

内容：漁具を「釣る」「潜る」「獲る」の項目に分けて、それぞれの項目に応じた用具を展示した。

④正月行事に関する展示（選者：長田君應）

期間：令和6年1月～3月

内容：正月行事で行われていた水迎え・臼おこし・鍬入れ・チイナビキ・福祭文（クサイモン）・蚕舞（かーごまー）など一連の行事について、民具やビデオ等で紹介した。また、正月の雰囲気を出すために、鏡餅（模造）や凧、コマなどの正月の子供の遊び道具の展示も行った。

（2）イベント

○ヒロウィン・ナイトミュージアム

日時：令和5年10月29日（日）

内容：本年度は、10月29日（日）17時～19時に開催した。ハロウィン風に飾りつけられたミュージアムと、イルミネーションを施した遊歩道で導かれる夜の広田遺跡公園にて、広田遺跡に関するクイズラリーを展開。他、仮装コンテストや〇×クイズ、ウクレレサークルの方々によるミニ・コンサートを実施。参加者は、趣向を凝らした仮装姿で、数々の催しに参加し、夜の博物館を楽しんだ。ヒロウィン・ナイトミュージアムは、広田遺跡語り部の会の皆さんとの共同で行っているイベントで、語り部の皆さんもナイトミュージアム仕様の黒い広田人衣装を身にまとい、参加者を楽しませたいと各々の役回りに就き尽力された。

第2節 教育・普及啓発

（1）広田遺跡ミュージアム ジュニア学芸員

ジュニア学芸員は、令和5年度は、学習効果を高めるという観点から、小学校4～6年生までを対象とし実施した。この事業は、種子島の歴史・文化・自然を学んでいただく教育・普及啓発事業で、今年は立切遺跡・横峯遺跡が国指定となったことを受け、「先史時代の種子島を学ぶ」をテーマに実施した。所定の課程を修了した受講生には、ジュニア学芸員認定証を発行している。

ジュニア学芸員の人数

	小学生	中学生	高校生	合計
平成26年度	19	5	0	24人
平成27年度	21	6	0	27人
平成28年度	28	8	1	37人
平成29年度	27	3	0	30人
平成30年度	53	0	0	53人
令和元年度	50	0	0	50人
令和2年度	80	0	0	80人
令和3年度	60	0	0	60人
令和4年度	35	0	0	35人
令和5年度	35	0	0	35人

令和5年度活動

○第1回「(1)開校式 広田遺跡について学ぼう！」
学芸員及び語り部による広田遺跡についての解説
日時：令和5年6月17日(土)13:30～15:30

場所：広田遺跡ミュージアム 講師：小脇有希乃・長田君應・大谷ともよ
内容：第1回目は、ミュージアム展示室と遺跡公園を巡り、広田遺跡について学芸員や語り部の解説を聞きながら学んだ。また、体験学習室で2チームに分かれ、人骨模型を使い、実際に人骨を組み立てることで骨の構造を学び、出土した貝や動物の骨を分類する体験を行った。

○第2回「広田の川で学ぼう！遊ぼう！」
日時：令和5年7月15日(土)13:30～15:30

場所：広田遺跡ミュージアム・広田川 講師：小脇有希乃
内容：第2回目は、広田遺跡公園の横に流れる広田川にて、語り部協力のもと、広田川の生き物観察を行った。上流に向かってゴムボートを漕いでいき、仕掛けたカニかごを回収したり、網で魚やカニなどの生き物採集を行ったりした。また、広田川に生息する生きものについて職員からクイズ形式で解説があった。

○第3回「横峯遺跡で遊ぼう！」
日時：令和5年9月16日(土)13:30～15:30

場所：横峯遺跡
内容：講師に鹿児島大学国際島嶼教育研究センター特任教授の鈴木英治先生を招き、横峯遺跡とその周辺の植物観察会を行った。横峯遺跡周辺で椎の木などの照葉樹のほか、多種多様な草花類を確認し、参加者からは「種子島は今も昔も自然が豊かな島だったんだ」との声があった。最後に、それぞれ好きな植物をひとつ選び、押し花づくりを行った。

○第4回「狼煙(のろし)体験をしてみよう！」
日時：令和5年10月21日(土)10:00～15:30

場所：南種子町自然の家 講師：南種子町地名研究会
内容：南種子町地名研究会の方々を講師に招き、古代の連絡手段であった、狼煙の体験を行った。島間自然の家で狼煙を焚き、古代種子島の狼煙台の一つとされる「火合峯(ひやみね)」から肉眼で見えるか、実験を行った。強風ではあったが、自然の家から立ち上る煙をしっかりと確認することができた。中には、狼煙にあわせて叩いた鐘の音

も聞いた参加者もいた。

○第5回「宇宙芸術を体験しよう！」
日時：令和5年11月25日(土)13:30～15:30

場所：広田遺跡ミュージアム 講師：吉本 英樹
内容：講師に、宇宙芸術祭アドバイザーも兼ねるデザインエンジニア、吉本英樹さんを招き、先端アートデザインや宇宙芸術祭に関連したアート作品について講話頂いた。また、種子島宇宙芸術祭に吉本氏が出品されている「INAHQ」の組み立てを一緒に行うことで、宇宙芸術を体験し、先端アート作品の構造や特徴を学んだ。講話では、ジュニア学芸員の自由な質問に対する吉本氏の返答から、吉本氏の活躍について興味深く知る事が出来た。「INAHQ」の組み立ては、ジュニア学芸員の好奇心を引き出すもので、全員が積極的に取り組み、貴重な体験となった。

○第6回「閉校式、岩穴体験、昔の焼き芋をしよう！」

日時：令和6年2月17日(土)13:30～15:30

場所：広田遺跡海岸
講師：松原信之・広田遺跡語り部の会
内容：今年度、最後のジュニア学芸員講座では、「礫群を学ぼう、体験しよう」をテーマに、喜界町教育委員会が具委員の松原信之さんを講師に招き、礫群についての講座を実施。広田海岸で、実際にさつまいもの石蒸し体験を行った。また、同時に語り部さんと塩焼きや海岸の井戸の確認などを行った。最後に濱田館長から修了証の授与がなされ、今年度の講座が修了した。

(2) 広田遺跡語り部ジュニア研修

2023年度より新たに開始された、小学4年生～中学生向けの研修制度。語り部と共に広田遺跡について深く掘り下げて学ぶ事で、本来の学びの楽しさや自発的な探究心、興味の広がりを促す教育・普及啓発事業である。また地元への愛着を深めた若い世代の語り部創出を目的とする。研修修了後には修了認定証を授与。その後の広田遺跡ミュージアムの「語り部ジュニア」としての活動も推進し、12月には飛島村の6年生に、自分が研究したテーマについて「語り部ジュニア」として実際の案内を行った。

語り部ジュニア研修生 2名

○研修内容

研修生に、語り部で使用するマニュアルと研修用レポートを配布。研修生は5日間、計5人の語り部と共に広田遺跡について研究する。研修日の語

り部の案内を受けたり疑問や仮説について話し合い、特に興味を抱いたことについて深く研究し、レポートにまとめる。

研修日時：夏休み開始日から冬休み最終日（令和5年7月21日（金）～令和6年1月8日（月））のうち研修生が希望する5日間、9：00～11：00の時間帯にて実施。

令和5年度活動内容

○第1回 まずは知ろう、広田遺跡の基本！「もっと知りたい」を見つけよう！

内容：語り部による1時間程度の展示室と遺跡公園の案内を受け、気になることや分からないこと、不思議だと思ったことを研修レポートにメモし、語り部に質問をしたりした。メモを取ることで頭に浮かんだ小さな疑問について話し合うことができたり、なぜなのかに対する想像を膨らませることができた。

講師：佐伯圭子、長田君應

○第2回 語り部なりきり体験！マニュアルを読みながら「語り部」をやってみよう！

内容：語り部が持っているものと同じ案内マニュアルを使い、語り部の前で読み上げながら展示室や広田遺跡公園にて語り部体験を行った。また、マニュアルで紹介されている広田遺跡公園内の植物を研修生自身で撮影しながら語り部の植物の説明を聞くことで、種子島の植物の知識を深めた。

講師：日高久則、長田君應

○第3回 自分の探究テーマを決めよう！

内容：第一回の案内より詳しい展示室の案内を受け、新たな疑問を語り部に質問などしながら、自分の探究したいことを決定した。研修生2人とも、自分がより興味深く感じたことをしっかりと探究テーマに決めることができた。また仮説と合わせて学芸員に質問をし、学芸員の見解を聞くことができた。

講師：浜藤幸夫

○第4回 いざ、深掘り探究&レポートまとめ

内容：自分が決めた探究テーマについて語り部と共に調べ、レポートをまとめた。難しい言葉、初めて聞く言葉や深く掘り下げて調べたいことなど、インターネットを活用したり書籍などで調べ、レポートをまとめることができた。

講師：峯山弘子、日高久則、石堂和博

○第5回 研修レポートを完成させ、自分スタイルの語り部をやって締めくくろう

内容：研修最終日は、自分の探究についてしっかり

りまとめるか、自分が探究した箇所を「語り部」として案内するか各自選択をした。1人は探究まとめとして、広田遺跡お気に入りベスト3や今後知りたいこと、印象に残ったこと、研修の感想などまとめてオリジナルのレポートを完成させた。1人は、自分が探究したテーマの語り部台本をオリジナルでパソコンを使って作成し、語り部と共に練習し、最後は語り部・職員・親御さんの前で「語り部」として案内の発表を行った。

5日間の研修を終え、修了証贈呈とともに、5日間関わった語り部からのメッセージが書かれた用紙を手渡した。

講師：日高久則、長田君應、小笠原涼子

（3）学校、一般向け館利用

○学校による館利用

・油久小学校 子供7名 大人7名：令和5年5月2日（火）9：00～10：00（語り部）

・南界小学校 子供7名 大人7名：令和5年5月2日（火）9：00～10：00

・3校合同宿泊学習（西野小・島間小・荃南小）
子供29名：5月17日（水）（島間自然の家にて出張体験学習）

・中種子中学校 子供46名 大人6名：令和5年5月18日（木）9：50～11：00（語り部）

・南種子中学校 子供49名 大人7名：令和5年5月25日（水）9：30～11：30（語り部・体験学習）

・現和小学校 子供29名 大人7名：令和5年5月26日（木）10：00～10：50（語り部）

・下西小学校 子供19名 大人2名：令和5年6月1日（木）9：10～11：00（語り部）

・町内4校合同宿泊学習（長谷小・平山小・大川小・花峰小） 子供27名：令和5年6月1日（木）（島間自然の家にて出張体験学習）

・中平小学校宿泊学習 子供29名：6月15日（木）島間自然の家にて出張体験学習）

・南種子町内学校事務職員研修会 大人8名：7月12日（水）14：00～16：30（体験室利用・体験学習）

・南種子町新任教職員研修 大人3名：令和5年8月2日（水）14：30～15：30（語り部）

・中種子特別支援学校 高校生7名 大人5名：令和5年9月28日（木）9：30～11：50（語り部・体験学習）

・広島市立舟入高等学校 高校生11名 大人1名：令和5年10月12日（木）15：15～17：00（語り部・体験学習）

・岩岡小学校 子供15名 大人10名：令和5年10月20日（金）9：30～11：00（語り部）

・榕城小学校 子供74名 大人5名：令和5年10月25日（水）11：30～13：45（語り部・

体験学習)

- ・野間小学校 子供 42 名 大人 3 名：令和 5 年 10 月 27 日 (金) 9:00～10:00(語り部)
- ・伊関小学校 子供 9 名 大人 3 名：令和 5 年 12 月 12 日 (火) 10:00～12:00(語り部・体験学習)
- ・星原小学校 子供 11 名 大人 4 名：令和 6 年 1 月 31 日 9:30～10:30(語り部)
- ・西野小学校 子供 25 名 大人 8 名：令和 6 年 3 月 8 日 (金) 10:30～11:55(語り部)
- ・花峰小学校 子供 10 名 大人 6 名：令和 6 年 3 月 8 日 (金) 13:45～14:45(語り部)

○一般向け館利用

- ・中種子町ウミガメ留学交流会 子供 10 名 大人 8 名：4 月 5 日 (水) 13:00～14:00(語り部)
- ・サロンせんろん坂会 大人 11 名：令和 5 年 4 月 14 日 (金) 11:00～12:30(語り部・体験学習室利用)
- ・宇宙芸術祭実行委員会 子供 13 名 大人 11 名：令和 5 年 7 月 26 日 (水) 9:30～10:30(体験学習)
- ・宇宙少年団 子供 76 名 大人 3 名：令和 5 年 7 月 28 日 (火) 9:00～12:00(語り部)
- ・宇宙芸術祭実行委員会 大人 12 名：令和 5 年 12 月 14 日 (木) 15:30～16:30(語り部)
- ・飛島村交流事業 子供 10 名 大人 4 名：令和 5 年 12 月 23 日 (土) 9:00～11:00(語り部・体験学習)

(4) 出前講座・研修・博物館実習・職場体験等

○南種子中学校職場体験 2 名 令和 5 年 5 月 24(水)～令和 5 年 5 月 26 日 (木)

内容：南種子中学校 2 年生が 2 名、広田遺跡ミュージアムに職場体験。館の清掃やガイド体験、語り部の会の SNS 発信を通じて、働くことの意義を学んだ。25 日に行われた南種子中学校の 1 年生を対象にした勾玉作りでは、後輩に気配りをしながら指導の補助を行った。

○博物館実習 1 名 令和 5 年 8 月 18 日 (金)～令和 5 年 8 月 24 日 (木)

内容：江戸川大学 4 回生が 1 名、広田遺跡ミュージアムと郷土館にて博物館実習を行った。広田遺跡ミュージアムでは、アンギン編みや、施設管理員の業務内容を理解し補助業務を行ったり、重要文化財の運び出しの補助を行った。また、学芸員によるカメラ撮影に関する講座・実習や、講話研修の受講など行った。

第 3 章 監理・運営

(1) 広田遺跡語り部の会

広田遺跡語り部の会は、広田遺跡の発掘に実際に参加したり、発掘に参加した方の子孫であった

り、たねがしま古代塾に参加し、島の歴史に興味をもったりした方など平成 26 年 12 月に結成した広田遺跡のサポーターである。館がオープンする前の、平成 26 年 12 月に結成され、それから 3 ヶ月間活動をした後、平成 27 年 3 月の館オープン以降は、広田遺跡語り部として展示案内などの館活動に参画している。現在の会員は 8 名である。

○ 広田遺跡語り部の会 会員 名簿

会長：長田君應、副会長：元川孝男、監事：日高久則、兵藤幸夫、会計：豊島巧、会員：平島強、峯山弘子、佐伯圭子、羽生紀幸

※名誉会長：原南海雄、OB 会：向井良隆、長田隆幸、長田睦郎、田淵川サナエ、作本奈歩 顧問：羽生源志、濱田伸一

○ 広田遺跡語り部の会 表彰関係

平成 30 年 2 月 26 日 たねやくきらめき表彰

令和 4 年 11 月 4 日 熊毛地区社会教育関係優良団体表彰

○令和 5 年度の活動内容

令和 5 年 4 月 5 日 (水) 8:30～12:00 令和 4 年度総会、定例会、企画展研修

令和 5 年 5 月 9 日 (火) 8:30～12:30 草払い、定例会

令和 5 年 6 月 6 日 (火) 8:30～11:00 定例会

令和 5 年 7 月 5 日 (水) 9:00～12:00 海岸清掃、定例会

令和 5 年 8 月 8 日 (火) 台風のため中止

令和 5 年 9 月 5 日 (火) 9:00～12:00 ハロウィンイベントに向けての話し合い、定例会

令和 5 年 10 月 5 日 (木) 9:30～12:00 ハロウィンイベントに向けての話し合い、定例会

令和 5 年 10 月 29 日 (日) 17:00～19:00 ハロウィンイベント

令和 5 年 11 月 7 日 (火) 8:30～12:00 ハロウィンイベント反省会、定例会

令和 5 年 12 月 3 日 (日) 18:00～21:00 歓送迎会、ハロウィンイベント反省会 場所：八作

令和 5 年 12 月 18 日 (月) 9:00～12:00 年末清掃、草払い、定例会

令和 5 年 12 月 28 日 (木) 8:30～12:00 門松作り

令和 6 年 1 月 18 日 (木) 8:30～12:00 定例会

令和 6 年 2 月 17 日 (土) 8:30～17:00 ジュニア学芸員最終講座講師

令和 6 年 2 月 26 日 (月) 8:30～16:30 定例会、語り部の会研修

令和 6 年 3 月 21 (木) 9:00～11:00 定例会

(2) 広報

○町広報紙「広田遺跡ミュージアムだより」毎月連載

○広田遺跡語り部の会によるフェイスブック・インスタグラムでの情報発信，ホームページの作成

（３）文化財の保存・管理

重要文化財の運搬

広田遺跡は、H-Ⅱ A、H-Ⅱ B 及び H3 ロケットの警戒区域に設定されているため、文化庁美術学芸課の指導により、ロケットの打ち上げの際に重要文化財を南種子町立埋蔵文化財センターに搬出することとなっている。

令和 5 年 8 月 27 日（日） H2A ロケット 47 号機打ち上げに伴う搬出、ロケットの打ち上げは天候不良により延期。 対応：小脇・大谷

平成 5 年 9 月 7 日（木） H2A ロケット 47 号機打ち上げに伴う搬入 対応：小脇・大谷

令和 6 年 1 月 9 日（火） H2A ロケット 48 号機打ち上げに伴う搬出、次の打ち上げが 2 月に予定されていたため、搬入はしなかった。対応：石堂・大谷

平成 6 年 2 月 17 日（土） H3 ロケット試作 2 号機打ち上げ終了に伴う搬入 対応：小脇・豊島

写真図版1 ジュニア学芸員の活動



写真1 第1回講座

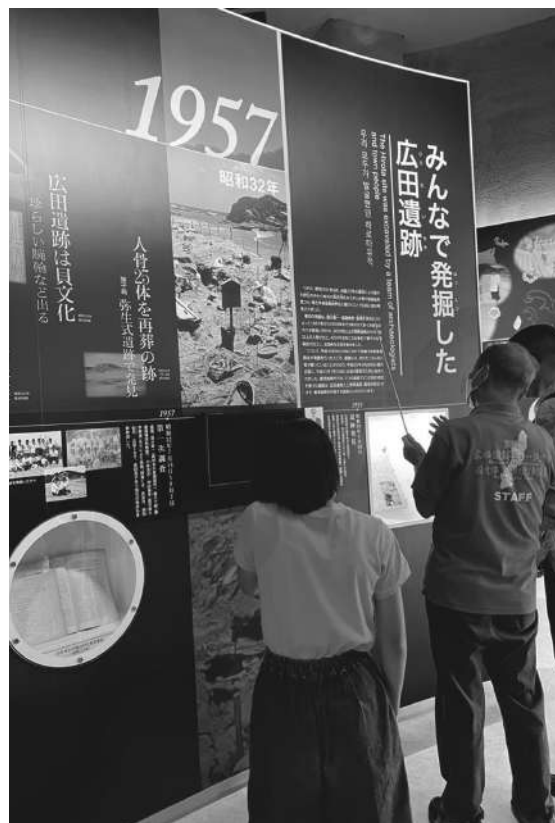


写真2 広田遺跡「語り部」研修



写真3 広田川で学ぼう、遊ぼう！



写真4 横峯遺跡で遊ぼう！～植物観察会～



写真5 ヒロウィン・ナイトミュージアム



写真6 狼煙を体験してみよう！

写真図版2 ジュニア学芸員の活動



写真1 むかしの遊び展



写真2 海岸清掃



写真3 講師の松原信之先生



写真4 礫群を学ぼう、体験しよう



写真5 認定証の授与



写真6 丸木舟展 (語り部の逸品)



写真7 語り部の会による門松制作

写真図版 3 語り部が選んだ郷土館の逸品展



写真1 昔の漁具



写真2 正月展

第4章 調査・研究

(1) 研究報告

種子島民謡 草切り節について

はじめに

種子島芸能はたくさんありますが、南種子町では「郷土芸能文化財等DVD一覧」でわかりますように保護・保存に努めているところ。他にもまだまだ数多くの郷土芸能があり、現在も収集等に努めているところ。

このような南種子の郷土芸能を大きく分類すると、次のように分類することができると思います。神仏事、慶事（祝事）、娯楽の3つに分けることができます。

神仏事では、大踊り、源太郎踊りが主になり、慶事（祝事）では、めでた節、西目出し、やーとせー、ひょうたん踊りなど数多くありますが、神仏事の時にも唄い踊ることがあります。娯楽では、鳥刺し舞い、バックー舞い、草切り節があります。他にもたくさんの郷土芸能がありますが、種子島を代表する郷土芸能民謡といえば、「草切り節」だと思います。

1 「草切り節」発祥の地は？

昭和40年、NHK収録の「種子島民謡」の中で、南種子町平山出身で種子島民謡の継承・伝承者であった中島善八さんは解説の中で「発祥の地は平山広田で、明治になってから現在のようなゆっくりした歌い方になった……。」と話しています。

また、「ゆこやゆこや 草きりゆこや もんぱ畑の みぎひだり」という歌詩がありますが、「まんぱ畑」と歌う人も少なくないです。『種子島民謡7号』に平山広田の向井長助が「紋

南種子町文化財保護審議委員 向井良隆

八（もんぱ）畑」が実在することを報告しています。このことを基に、自分自身の里である平山広田で調査を始めました。

広田集落は南種子町の東側に位置し、種子島宇宙センターの裏玄関とも言える所です。昭和40年頃までには50戸程の半農半漁の集落でした。昔から伝統やしきたりを重んじ、郷土芸能等を伝承しています。現在では広田遺跡ミュージアムが建ち、様々なイベントも行われています。また、南種子町指定の文化財、広田の石塔祭は有名です。

はじめに、歌詞について調べてみると「♪～ ケッシーよ 行こうや草切り 行こうやもんぱ畑の みぎひだり」と歌いだすのが広田流の唄い方だとわかりました。

次に、紋八畑とはどこにあったのかを調べてみると、現在では種子島宇宙センターの敷地内で昭和40年頃までは広田集落の人々の田畑があり、平谷と呼ばれていた所であり、その東側に長田紋八さんの畑（長田睦郎氏の先祖）があり、紋八畑と呼んでいたようです。永い年月の間、歌い継がれていく内に万波畑と歌う人も出てきたのではないのでしょうか。

2 「草切り節」はいつ・どの様にして生まれたか

いつの時代から唄われるようになったかはわかりませんが、先輩諸氏の話しから江戸時代にはすでに唄われていたのではないかと思います。「歌詩は七・七・七・五の四句でできており、江戸時代の近世小歌

歌謡の典型的な詩形である。」と音楽に詳しい鹿児島国際大学名誉教授の松原武実先生は示しています。本歌は昔から種子島に伝わる田植え歌だと言われていますが、その田植え歌も知る人も無く、今までは茎永の宝満神社、下中八幡神社の御田植え祭で唄われているだけとなりました。

「草切り節は労働歌として生まれた」とよく言われますが、実は恋愛歌から始まったと話す広田の人たちが多くいます。諸説ありますが、広田では「行こうや 行こうや……」ではなく「ケッシーよ 行こうや……」と歌い出す人が多いのですが、ケッシーとは人の名前であり、「一緒に行きましょうよ」とお願いしている様を歌ったものであり、これが始まりでその後たくさんの歌が生まれたのです。現在では約 1,000 首もあると言われています。

3 「草切り節」の歌詩は

歌詩は基本的には七・七・七・五で作られ、生活の中で起こる感情や社会風刺など、色々な場面で草切り節として生まれています。まずは広田で歌われている歌詩です。

男

1 ケッシーよ いこうや草切りいこうや
紋八畑のみぎ ひだり

女

2 わごうあの峯 おらあーこの峯よ ま
ねき合せて 草を切ろう

男

3 草を切る時きやあー ヘコスタまぜて
かあかあらおし分 その中を

女

4 馬の肥ゆるは 真茅のめだち 馬のや
するは 荒ススキ

男

5 ケッシーよ 何んばかよ おら今9把
よ わあーも9把かよ おいも9把

女

6 アヨー 9わは9把でも 束りが綱こ
う かんめもどが あよー はずかしいこ
う

男

7 何の恥かよー 9把ずつ切れば ケッ
シーよありよう見れ 日も暮れとおー

女

8 3把切り添え 12把すけて かんめ
もどりの品が良こう

男

9 急けばー 早やかもんじあ もう我が
木戸よおー 今夜会わんから明日よなー
ケッシー

女

10 後いよおー

1 人でも歌いますが、男女2人で歌うこと（かけ歌）も多いでしたが最近では聞くことはあまりなくなりました。この歌詩を基にして次の様にたくさんの歌ができ、残されています。

(1) 恋愛歌

♪～ 思うて通えば千里も一里 会わ
ず戻れば また千里
♪～ 恋の細道 教えた人を 命一代
忘りゃあーせん

(2) 労働歌

♪～ 噛めよ車よ 廻れよ芯木 汁も
たまれば 夜もあける
♪～ すすきの芽だちに タブの葉混
ぜて馬も肥やそや まりのごと

(3) 親子愛歌

♪～ おや 親は子が良か 子は親が良こ
う 池の鯉・^{こい} 鮒^{ふな} 水が良こう

♪～ 親が子を思うは 千里^{せんり}が山の
落ちる木^この葉^はの 数よりも

(4) 夫婦愛歌

♪～ ^{くわ} 鋤^{くわ}をかたげて ^{こうた} 小唄^{こうた}で帰る
家に待つ妻^ま 立つ煙^{けむり}

♪～ 行^いたておじゃれと ^{かど} 門^{かど}まで出
たが 門^なじゃあもろ泣^なき もろ涙

(5) 郷土愛歌

♪～ いたちえ^み見たかよ ^{ひらやまひろた} 平山^{ひらやまひろた}広田
いな^{ところ}し^{おと}所と音^{おと}に聞く

♪～ ^{くきなが} 茎^{くきなが}永良^よか^よとこ 一度^さはおじゃ
れ 岩^まのはざ間^さに つつじ咲く

♪～ ^{しまま} 島^{しまま}間^で出^とる時^{とき}きゃあー 涙^{なみだ}出る
が 岬^{みさきまわ}回^{まわ}れば唄^{うた}がでる

(6) 生活歌

♪～ ^{らく} 楽^{らく}は^く苦^くの^た種^ね子^こ 苦^くは^た楽^{らく}の^こ種^ね子^こ
^{なが} 流^{なが}す^{あせみず}汗^{あせみず}水^{みづ} ^{とみ} 富^{とみ}の^{とみ}種^ね子^こ

♪～ ^{はら} 腹^{はら}が立つ時^{とき}ゃあー ^{ちやわん} 茶^{ちやわん}碗^{わん}で酒^{さけ}
を飲んで ^{いつとき} 一時^{いつとき}寝^ねが良^よか

♪～ ^{いれ} 金^{いれ}の^ば入^{いれ}歯^ばをはめ^めたる娘^{むすめ} ^{てつ} 鉄^{てつ}の^{てつ}
^{なべ} 鍋^{なべ}売^うる時^{とき}も来^きる

♪～ 嫁^{よめ}を^{よめ}そ^{よめ}し^{よめ}る^{よめ}な ^{よめ} そ^{よめ}し^{よめ}る^{よめ}な嫁^{よめ}を
^{かわい} 可^{かわい}愛^わい^わ我^こが^こ子^{ひと}も^{ひと}他^{よめ}人^{よめ}の^{よめ}嫁^{よめ}

このように種子島の人々の生活の中から数多くの歌詩が生まれ、取捨選択されながら又、歌詩の一部分だけを変えて歌うなどして歌い継がれ、現在では約 1,000 首も残されています。

4 草切り節歌い方の特徴

平山広田の出身で詩吟の有段者であり種子島民謡の継承者でもあった故 原武信氏

は、種子島民謡の歌い方の特徴は次の 3 点があり、最も難しいのであると教えてくれました。

(1) 唄い込み

1 句 1 句を最後まで丁寧に歌い、息継ぎ（ブレス）をするときは発音の中でする。

(2) ゆらし

大きく抑揚（声の調子の上げ下げ）をつける

(3) おとし

歌の終わりの句を音階を急に下げる

特に広田の草切り節には、この 3 点が入っているので歌い方が難しく歌う人が少ないです。また、そのために採譜（楽譜に書きとること）ができないとも言われています。

その他に、かけ合い（かけ歌）と言われている歌があります。2 人の歌い手が交互に歌う歌い方ですが、昔は 1 番を即興で作詩して歌うと次の歌い手が同じ様に即興で作詩して歌うという歌い方（返し歌）があります。

5 おわりに

「郷土芸能、民謡は伝承するのが難しくなった」という言葉を耳にするようになり、社会的にも経済的にも郷土芸能民謡を取り巻く環境は大きく変わり、悪化の一途をたどっています。昔のままを継承、伝承することはなお更難しいことです。継承、伝承の考え方を柔軟にし、跡絶えることのないよう努力することも、また重要なことではないでしょうか。草切り節は前にも述べたように、歌い方は地域や歌い手によって微

妙に違いがあります。しかし、それはどれが正解でどれが不正解ということはありません。私たちが今後も種子島の哀愁

歌として親しみ、作詞し、歌い続けることが文化財保護の観点からも大切なことではないでしょうか。



写真1 草切節発祥の地

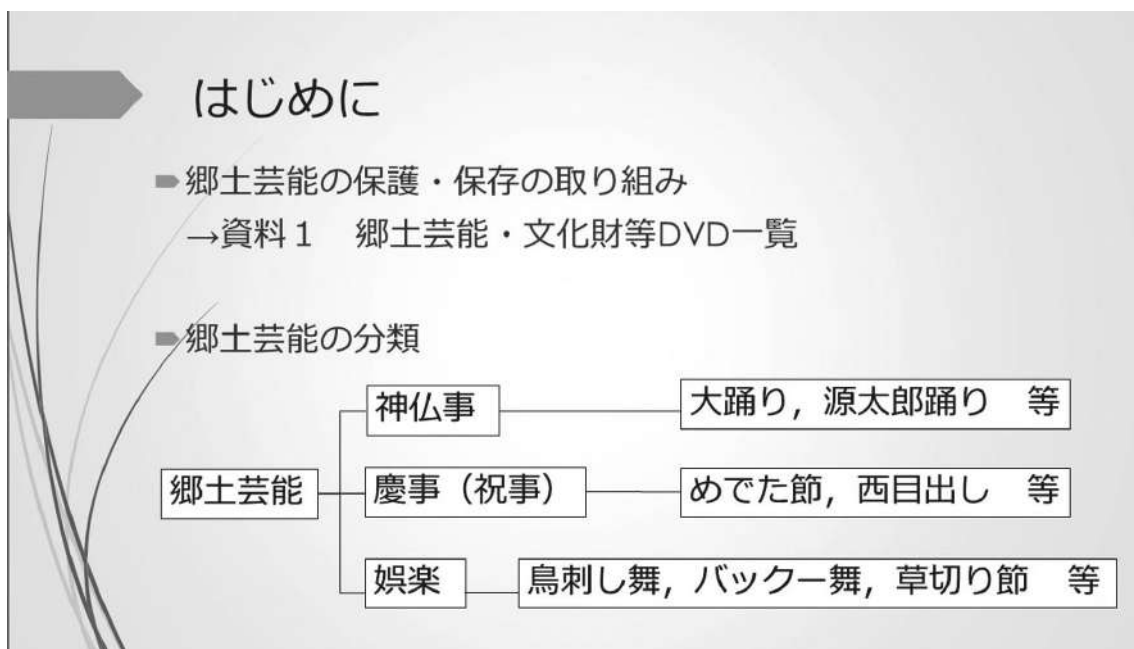


図1 草切節について

南種子町郷土館 館報

南種子町郷土館 館報 目次

第1章 郷土館の概要

- 第1節 館の概要と組織 P19
- 第2節 入館者状況 P19

第2章 館の事業

- 第1節 展示 P20 ~ 21
- 第2節 体験学習 P21
- 第3節 資料収集 P21
- 第4節 館活動（館日誌より） P21 ~ P27
- 第5節 企画展紹介 P22 ~ P25
 - 南種子の稲作展
 - 山本直純制作「歌声の響楽譜」公開展＝修正された楽譜に見る制作過程＝

第 1 章 郷土館の概要

第 1 節 館の概要と組織

(1) 館の概要

名 称 : 南種子郷土館

所在地 : 熊毛郡南種子町中之上 2420-2

設 立 : 昭和 61 年 3 月 5 日

種 別 : 人文系博物館 (民俗・歴史等)

収蔵資料: 芸能 306 点・歴史 95 点・民俗
1,336 点・産業 635 点・自然科学 54 点・
美術工芸 214 点・山本直純資料 1,309 点・
その他 51 点 (計) 3,990 点

開館及び休館日

開館時間: 午前 9 時～午後 5 時

入館料 : 無料

休館日 : 毎週月曜日・毎月第 4 金曜日 (資
料整理日) 12 月 28 日～翌年 1 月 4 日

(2) 館の組織

役 職	令和 5 年度
館長 (兼任)	濱田伸一 (社会教育課長)
係長 (兼任)	小脇有希乃 (文化係長)
学芸員 (兼任)	豊島巧
庶務係 (兼任)	大谷ともよ
文化施設管理員 補助 (専任)	古川美和

(3) 南種子町郷土館管理委員会 委員名簿

役職	令和 5 年度
委員長	柳田 和則
副委員長	宮里 照夫
委員	大脇 光矢
委員	向井 良隆
委員	野首 久教

開催日: 令和 5 年 4 月 14 日

場所: 南種子町研修センター

協議: 入館者状況、令和 4 年度事業報告、
令和 5 年度事業計画、令和 5 年度年報等

第 2 節 入館者状況

年 度	計	町内	島内	島外
昭和 61 年 3 月 5 日 ～平成 7 年度	20,457	—		
平成 8 年度	1,207	400	807	
平成 9 年度	1,081	497	584	
平成 10 年度	444	201	243	
平成 11 年度	894	583	311	
平成 12 年度	855	509	346	
平成 13 年度	817	347	470	
平成 14 年度	1,235	598	637	
平成 15 年度	775	441	334	
平成 16 年度	1,135	741	394	
平成 17 年度	634	367	267	
平成 18 年度	833	407	426	
平成 19 年度	1,108	625	483	
平成 20 年度	1,094	548	546	
平成 21 年度	1,091	610	481	
平成 22 年度	1,038	537	501	
平成 23 年度	864	519	345	
平成 24 年度	839	546	60	233
平成 25 年度	844	592	62	190
平成 26 年度	719	531	39	149
平成 27 年度	581	412	39	130
平成 28 年度	1,184	773	161	250
平成 29 年度	1,725	1,015	187	523
平成 30 年度	1,454	891	261	302
平成 31 年度 (令和元年度)	1,141	856	30	255
令和 2 年度	689	538	39	112
令和 3 年度	612	401	38	173
令和 4 年度	1,052	519	121	412
累 計	46,402			

第2章 館の事業

第1節 展示

1. 企画展示

過去の企画展から「塩と塩づくり」のパネル展示開催

期間：令和5年4月2日～7月26日

内容：南種子で最初に塩づくりが行われた西海下立石地域の鎌倉式製塩法や種子島で初めて塩田式の塩づくりが行われた平山浜田地域の大浦塩田における製塩法を中心にイラストでわかりやすく紹介。また、前記下立石地域の火入れ祈祷と呼ばれる行事は、製塩が行われなくなった現在も開催されており、その様子もパネルで紹介した。その他、日本における製塩法や塩にまつわる話なども併せてパネルで紹介した。



企画展「南種子の稲作展」開催

期間：令和5年8月1日～9月30日

内容：今年度最初の企画展は、館の収蔵資料を活用したものとした。展示は比較的資料が充実している「稲作農具」の展示を行い、時代背景はまだ機械化が進んでいない頃のものとした。田を耕す様子や田植えの様子などを再現するようなわかりやすい展示とした。また、併せて昭和38年当時の田植えの様子を撮影した貴重なビデオ等も交えて紹介した。



過去の企画展から「森越功写真展」のパネル展示開催

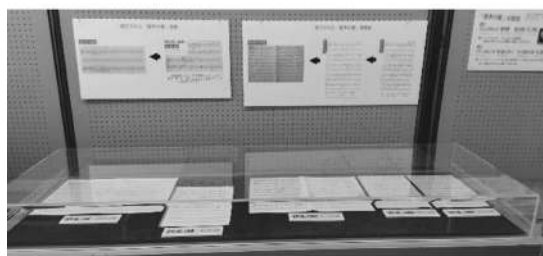
期間：令和5年7月27日～12月7日

内容：森越氏は南種子で初めて産婦人科を開業した医師で、町の文化協会の初代会長でもある。趣味で撮影した写真の中から、昭和の街並みや町のイベント・農作業及び漁業風景などを厳選し、展示を行った。今ではもう見ることのできない貴重な風景も数多くあり、写真のデータ化も行った。

企画展「山本直純制作 歌声の響 楽譜公開展～修正された楽譜に見る制作過程」開催

期間：令和5年11月1日～12月27日

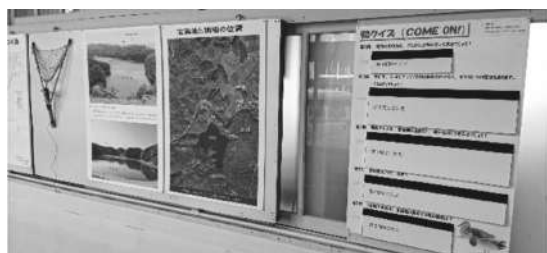
内容：前回の企画展では、発見された上皇陛下御作詞・上皇后陛下御作曲「歌声の響」の楽譜の公開を行った。今回の企画展では、楽譜の制作を依頼された山本直純氏が楽譜を制作する上で修正した楽譜の展示も行い、解説した。解説にあたっては、ご長男「山本純ノ介」氏にご協力いただいた。



過去の企画展から

「種子島南種子町宝満池鴨突き網猟」パネル展示開催

期日：令和5年12月8日～令和6年1月31日
 内容：宝満池の鴨突き網猟は、江戸時代前期頃から行われているとても貴重な風俗慣習で、県の文化財にも指定されている。パネル展では、猟の方法や猟で使用する突き網についてもミニチュアを展示してわかりやすく解説。



過去の企画展から「インギー鶏」のパネル展示開催

期間：令和6年2月1日～3月31日(予定)
 内容：令和6年2月25日に開催されるインギー鶏品評会に併せて、パネル展示を行った。
 インギー鶏は県指定文化財であり、その指定の経緯や地元、花峰小学校やインギー鶏育種会顧問の寺内昭徳氏宅の鶏舎で大切に飼育されている様子などをパネルで紹介した。



インギー鶏品評会の様子

第2節 体験学習

令和5年度実施した体験学習
 アンギン織コースターづくり：14名
 ブンブン独楽づくり：18名
 合計：32名(令和6年2月末日現在)

第3節 資料収集

令和5年度の収集資料は、以下のとおりである。

提 供 者	住 所	資 料 名
中島伝	平山	南種子民俗調査報告書「南風」(1点)
長田忠	平山	創作劇シナリオ「息子の帰郷」(1点) 創作劇シナリオ「冬の決意」(1点) 南種子町青年団書類綴(昭和33～34年度)(1点)
都貴美夫	中種子町	同人誌「つわぶき第8号」(1点) 同人誌「茅 第1号」(1点)

第4節 館活動(館日誌より)

令和5年4月2日 塩と塩づくりパネル展示
 令和5年4月3日 中島 伝氏寄贈資料収集
 長田 忠氏寄贈資料収集
 都 貴美夫氏寄贈資料収集
 令和5年4月14日 郷土館管理委員会開催
 令和5年6月2日 町立大川小学校見学
 令和5年7月11日 熊毛地区文化財保護審議会委員等研修会開催
 令和5年7月26日 民話講座生見学
 令和5年7月27日 森越功写真展開催
 令和5年8月1日 宇宙少年団見学
 シロアリ駆除
 令和5年8月1日 企画展「南種子の稲作展」開催
 令和5年8月22日・24日 博物館実習生研修
 令和5年11月1日 企画展「山本直純制作歌声の響楽譜公開展～修正された楽譜に見る制作過程」開催
 令和5年12月8日 種子島南種子町宝満池鴨突き網猟パネル展示
 令和6年1月30日 町立島間小学校見学
 令和6年2月1日 インギー鶏パネル展示開催

南種子町郷土館企画展

南種子の稲作展

令和5年

8/1(火)~9/30(土)

開館時間/午前9時~午後5時

入館料/無料

休館日/毎週月曜日・毎月第4金曜日



南種子町郷土館企画展

山本直純制作

歌声の響

楽譜公開展

修正された楽譜に見る制作過程



* 「歌声の響」の楽譜は、作曲家 山本直純氏が依頼を受け、
上皇陛下御作詞・上皇后陛下御作曲の旋律に前奏・後奏・伴奏
をつけて制作したものです。

令和5年

11/1(水)~12/27(水)

開館時間/午前9時~午後5時

入館料/無料

休館日/毎週月曜日・毎月第4金曜日

修正された「歌声の響」曲構成

修正前の楽譜



ダンジュカリユシヌ ウタグイヌフィビチ
ミウクルワレガウ ミウクルワレガウ
ミニドヌクル ミニドヌクル

修正中



ダンジュカリユシヌ ウタグイヌフィビチ
ミウクルワレガウ ミニドヌクル
ミウクルワレガウ ミニドヌクル



* 歌詞の繰り返し部分が、上記のように鉛筆やペンで修正されています。
併せて音符も修正されています。（ここでは、まだ後奏は修正されていません。）

修正された楽譜



修正された「歌声の響」後奏

「歌声の響」後奏部分

修正前の楽譜

純ノ介(ご長男)氏の手書きコピー譜に、
ペンで修正をされている楽譜です。



上記楽譜の上段5小節目最後の（ファ）の8分
音符が削られ、前音（ソ）が4分音符になってい
ます。そして、次の小節最初の4分音符（ミ）が
（ファ）に修正されています。

修正された楽譜



広田遺跡ミュージアム・南種子町郷土館 館報 第8号

発行日 令和6年3月29日

編集・発行

広田遺跡ミュージアム

〒891-3702 鹿児島県熊毛郡南種子町平山 2571

TEL 0997 (24) 4811

印刷所

(株)種子島新生社印刷

〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表 16736 番地 1

TEL 0997 (22) 0476

BULLETIN OF HIROTA SITE MUSEUM
AND
MINAMITANE TOWN FOLKLORE MUSEUM

Volume 8

March 2024

MINAMITANE TOWN HIROTA SITE MUSEUM
AND
MINAMITANE TOWN FOLKLORE MUSEUM